

令和3年度 南アルプス市立若草小学校 学校評価 後期学校関係者評価書

令和4年1月20日(木)
学校関係者評価委員会作成

【第3回学校関係者評価委員会】

1 実施日 令和4年1月20日(木) 午後7時より

2 会場 校長室

3 参加者 学校関係者評価委員 齊藤 三四郎(寺部区自治会長)
北村 敏 (スクールガードリーダー 元教員)
上野 恵美子 (主任民生児童委員)
須田 洋平(保護者代表・PTA会長)
中込 紘子(保護者代表・PTA副会長)

学校側 名取 和仁(校長) 富士池 慎一(教頭)
石川 明子(教頭) 米山 隆男 (主幹教諭)

4 協議の内容 ○……委員からの意見・感想 ☆……学校の考え

(1) 学校評価の方法と資料について
特になし

(2) 集計結果をもとにした考察と改善策

①全体的な評価の概略

○評価を見る限り、子どもたちと職員がよく機能している。施設以外はA判定で、先生方の仕事と子どもたちの学習意欲がよく出ている。

②分類毎による項目の評価と改善策

○質問ですが、家庭学習強化週間とは？

☆期間を決めて、親子で家庭学習に取り組み、学習習慣の定着を図るものです。

○あいさつはよくできていると思う。立ち当番の方や畑で農作業をしている私にもよくあいさつをしてくれる。評価が低くても気にしないでよい。ふだん通りだとよくやっている。

☆コロナ禍だが、声は小さくても心のこもったあいさつを目指している。

(3) 意見交換

☆学校評価の評価項目に、小中一貫教育の評価項目を入れた方がよいか？

○入れていく方向でよい。

○後期学校評価の回答率が上がった。学校メールで2回教えてくれたので、上がったと思う。次回も2回発信してほしい。

○登校班の班長が、登校中後ろを見て班に配慮して登校している。えらいと思う。高学年になっての成長を感じる。

○下今井のバスの到着時刻が年々早くなっている気がする。冬になると寒くて大変だと思う。

○學という字は、交わるという文字と大人が支えるという文字で構成されている。学校は交わることが大切。子どもも大人もコロナ禍だからこそ、オンラインではなく交わる大切である。

○1960年の東京オリンピックは、1度しか見ていないのに記憶に鮮明に残っている。子どもたちも今回のオリンピックは鮮明に記憶に残っているであろう。オリンピックを契機に夢をもってほしい。そのためには、選手がいかに頑張ったのかを、先生方は子どもたちに伝えてほしい。

☆学校では、いろいろなことを体験することが大事です。私は今でも小学校で体験したことが記憶に残っている。3学期は短いですが、子どもたちがいろいろな体験ができるよう頑張っていきたい。